



ジェイコー

JCHO

# 北海道病院だより

No.05



「看護の日イベント  
ふれあい看護体験」  
平成27年5月12日(火)開催  
高校生10名が参加されました。

## 病院理念

地域の人々を中心にした質の高い医療・介護を提供し、  
地域から信頼される病院になります。

## 基本方針

- 1.一人一人の権利を尊重し、人間愛を基調とした医療・介護を行います。
- 2.安全を第一に説明と同意に基づく医療・介護を行います。
- 3.地域との連携を推進し、求められる医療・介護を行います。
- 4.地域の健康増進をめざし、保健予防活動を推進します。
- 5.地域医療機能の推進をもって医療・医学の発展に貢献します。



## 地域連携相談室より

地域連携部 部長(副院長) 広瀬 崇興

当院は昨年4月に全国の社会保険病院の組織から全国57の地域医療機能推進機構(JCHO:ジェイコー)病院の組織に変わり、「独立行政法人 地域医療機能推進機構 北海道病院」として1年以上が経過しました。はじめは略称のジェイコー北海道病院に慣れて頂けず、大変ご迷惑をおかけしておりましたが、最近では少しずつ名前も浸透してきたように感じております。

当院は札幌の南東部に位置することから豊平区と南区の住民の方々を中心に名前の通り地域の医療機能を推進させる役割を担っております。さらに、社会保険病院時代の2013年に当地域の中核的な急性期病院として、北海道から「地域医療支援病院」の承認を受けているために、この地域の診療所との連携を密にすることが重要な課題の一つとなっております。この「病院」と「診療所」との連携を「病診連携」と呼びますが、昨年の改称以来、地域連携相談室で、連携を密にさせることに意欲を注いで来ました。特に当院では心臓・呼吸器・消化器・周産期などの各センターが充実しており、それぞれ最新の医療を行っております。ところが、現在の当院は、各センターの外来受診数が多いために混雑しており患者さんの待ち時間が長くなり大変ご迷惑をおかけしております。さらに、限られた数の医師は外来診療に時間を費やされ、十分にかつ安全に入院患者さんの診療が出来なくなるような弊害が起きつつあることから、当院の課題として直ちにその問題を解決することが挙げられました。そこで本年4月から「外来診療の紹介と逆紹介体制の強化」を打ち出させて頂きました。すなわち、外来通院中で病状が安定した患者さんはかかりつけの診療所に紹介(逆紹介)させて頂くと同時に、病状の増悪時や専門的な診断と入院治療を有する患者さんを診療所から積極的に紹介して頂くことにより、医師の診療業務内容を外来から入院診療へとシフトさせたい意向です。このような考えから、当院を初めて受診される初診の患者さんは原則として診療所などからの紹介状(健康診断での要精密検査書を含む)を持参して頂くことに致しました。ただし、緊急性のある病状の患者さんや上記センター(周産期センター除く)以外の科(耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、小児科など)に受診される患者さんはその限りではありません。なお、紹介状をお持ちの方は初診であっても受診予約が可能ですので地域連携相談室までお問い合わせください。

# 地域連携相談室のご紹介

地域連携相談室長 佐藤 貴子



私は、今年度4月に地域連携相談室長として配属になりました、看護師の佐藤です。地域医療機関の皆様並びに患者さんには、日頃より地域連携相談室をご利用頂きありがとうございます。

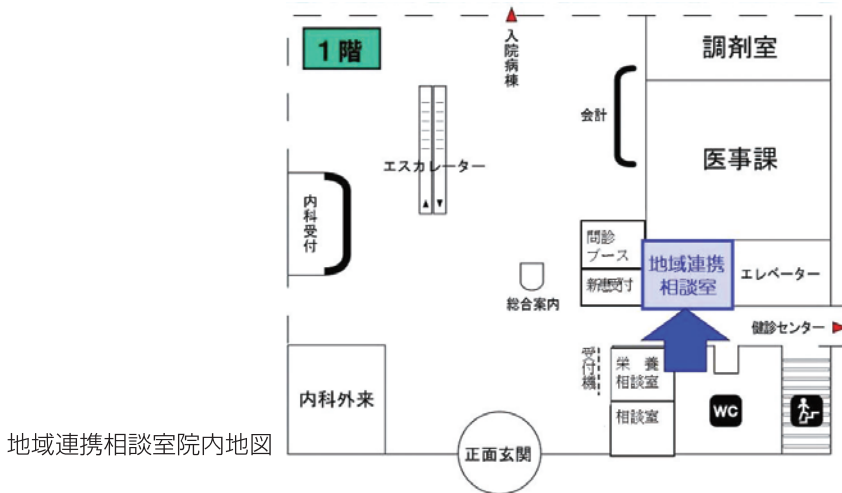
地域連携相談室は、看護師2名、事務職4名、ソーシャルワーカー5名が所属しており、地域医療機関からの受診・検査・入院などの調整を行う「前方連携」と、患者さん・ご家族から療養上の相談や社会資源の情報提供など、安心して退院して頂けるための相談業務を行う「後方連携」が主な仕事です。

今年より紹介状をお持ちの患者さんには、初診でも予約対応し、患者さんの来院可能日、当院の予約状況にてご相談させて頂いております。待ち時間短縮を目指しシステムの変更を行い、2月以降毎月ご利用患者さんが増えております。地域医療機関の皆様には、今後も紹介状記載のご協力よろしくお願い致します。

後方連携では、入院患者さんのカンファレンスに参加し患者さん・家族の意向に沿い、在宅であれば訪問看護師と情報共有し退院後の状態の把握を行い、外来受診時にも相談を受けています。また、リハビリ施設などへの入所希望の方には施設見学の調整も行っています。

がん性疼痛認定看護師も配属されており、症状や心配事についてのご相談を承っています。当院2階外来棟において患者図書室・サロンでは、がんに関することを中心とした書籍やパンフレットを設置しておりますので是非お立ち寄り下さい。

地域連携相談室は、当院正面玄関を入り右側でございますので、お気軽にお声掛け下さい。



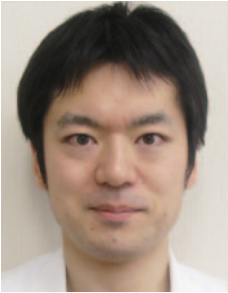
前方連携



後方連携

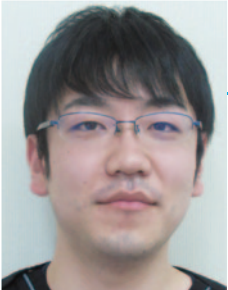


# 新任医師のご紹介



心臓血管外科 関 達也 (せき たつや)

前任の北大病院では松居教授のもと、一般成人疾患に加えて補助人工心臓(VAD)や心移植、左室形成術などの重症心不全の外科治療も勉強させて頂きました。最先端の外科治療を支えるのも確固たる技術であり、循環器治療の最前線であるJCHO北海道病院で、吉田部長の経験・技術を少しでも吸収できるよう精進いたします。当院の循環器治療が患者様や地域施設から信頼されるように努力して参ります。



呼吸器センター 猪狩 智生 (いかり ともお)

4月より赴任しました呼吸器センターの猪狩智生(いかり ともお)です。生まれは岩見沢市で岩見沢東高校を卒業後、旭川医科大学に入学。大学卒業後は2年間滝川市立病院で初期研修医として勤務いたしました。平成27年4月から北海道大学第一内科に入局し、この度JCHO北海道病院に赴任して参りました。私自身の祖父が肺がんを患い、手術によって完治した経験があり一人でも呼吸器疾患で悩む患者さんを助けたいという思いで呼吸器内科医になることを志しました。秋山先生をはじめとても優秀で人徳のある諸先生方、看護師、スタッフに囲まれ日々勉強をさせていただきとても感謝しております。今後とも何卒よろしくお願いたします。



消化器内科 山内 康嗣 (やまうち こうじ)

初めまして。4月よりJCHO北海道病院に赴任となりました消化器内科の山内康嗣と申します。医師3年目で、これまで市立札幌病院、北海道大学病院で研修して参りました。新しい環境で不慣れな面もありますが、皆さんのお役に立てるよう頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。



腎臓内科 山村 剛 (やまむら つよし)

国立病院機構北海道医療センターから参りました山村剛と申します。もともと豊平区出身で、今回地元で勤務できますことを大変うれしく思います。腎臓内科および透析療法の全般をやっておりますので、腎疾患に関して何かお困りな事がありましたら遠慮なくご相談頂けましたらと思います。まだまだ慣れないことが多く、ご迷惑をおかけすることと思っておりますが、宜しくお願い申し上げます。



糖尿病・内分泌内科 國崎 哲 (くにさき さとる)

はじめまして。3月より糖尿病・内分泌内科へ赴任致しました國崎哲と申します。これまで北海道大学第二内科・糖尿病内分泌グループに所属しておりました。大学病院、及び関連病院での経験を活かし糖尿病・内分泌内科の分野にて地域医療に貢献出来るよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

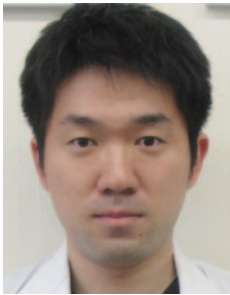
## 新任医師のご紹介

## JCHO Hokkaido Hospital



外科 正村 裕紀 (しょうむら ひろき)

外科の正村裕紀です。新札幌のJCHO札幌北辰病院外科より転任いたしました。専門は消化器外科で特に胃・大腸など消化管疾患の手術を主に今まで行ってきました。安全で患者さんに負担の少ない手術が行えるように努めていきたいと思っております。



外科 杉山 昂 (すぎやま こう)

みなさんはじめまして。この4月からJCHO北海道病院に赴任しました外科の杉山と申します。専門は消化器外科一般です。札幌市出身で、昨年までは稚内、その前は砂川で勤務し、2年ぶりに札幌に戻って参りました。主には病棟での勤務となりますが、この地域に貢献できるように頑張っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



外科 千田 圭悟 (ちだ けいご)

医師4年目 千田圭悟です。所属は外科です。出身は北海道札幌市で札幌生まれ札幌育ちです。近々娘が生まれるので、その準備で最近は大忙しです。今年が外科医一年目のようなものなので、死ぬ気で頑張ります。皆様には多々ご迷惑おかけしますが、どうぞよろしくお願い致します。



泌尿器科 高柳 明夫 (たかやなぎ あきお)

4月に着任した高柳明夫です。札幌生まれ、札幌育ちですが今まではあまり豊平区に馴染みがありませんでした。強風の中で豊平川の橋を渡るのも、地下鉄が地上に上がるのも、今のところは新鮮な経験です。泌尿器科は広瀬副院長と私の二人体制です。広瀬副院長は感染症を、私は性機能障害を専門としています。当然ですが、泌尿器科癌(腎癌、前立腺癌、膀胱癌、他)、尿路結石、前立腺肥大症、などに対する治療・手術も積極的に行っています。どうぞよろしくお願いいたします。



産婦人科 奥 聡 (おく あきら)

4月より産婦人科に赴任しました奥聡と申します。昨年までは初期研修医として沖縄県立南部医療センター・こども医療センターで暖かく研修しておりました。周産期をはじめとし地域医療に少しでも貢献できるよう精進しますのでどうぞよろしくお願いいたします。



皮膚科 福田 朝子 (ふくだ あさこ)

はじめまして。4月より皮膚科に赴任いたしました、福田朝子と申します。しばらく本州で勤務しておりましたが、昨年12年ぶりに地元北海道に戻って参りました。適度に都会で自然豊かな札幌はとても良い所だなと実感する日々です。私生活では3歳男児の母でもあります。時間に追われる毎日ですが、少しでもお力になれるように精進して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

# 身近ながんのお話し

がん性疼痛看護認定看護師 大槻 路代

皆さんがんとすると、どのようなイメージをもたれるでしょうか？不治の病、できることならがんには罹りたくない、と思われる方も多いと思います。身近であってほしくないがんですが、実は一生のうちでがんにかかるリスクは2人に1人とされているのです。

そんながんについて、がん性疼痛看護認定看護師の大槻が少しだけお話させていただきます。

がんって何でしょう？実は私達の体内では毎日細胞が入れ替わっています。その入れ替わりの時に突然変異した暴走細胞が、がんなのです。健康な人でも毎日約5000個のがん細胞ができてしまっています。しかしそのがん細胞をやっつけてくれる修復遺伝子のおかげで、がんにならずに済んでいるのです。でも退治しきれなかったがん細胞が増えるとがんを発症してしまいます。そこでやはり大切なのが早期発見、治療です。そのためにはがん検診を受けましょう。なんと！2人に1人ががんにかかると言われていたのに、がん検診を受けているのは4人に1人だそうです！

さて、ここからはがんの治療についてお話します。がん治療には3本の柱があります。

手術・放射線治療・抗がん剤治療です。がんは1人1人、そしてどの臓器にできるかでその顔つきはバラバラです。そのため、身体の状態・どこにできたがんか・がんの顔つき（がん細胞の種類）等で、3本の柱のうちどれで治療するかも変わってきますし、2本3本と柱を組み合わせて治療する事もあります。また、がんの恐ろしさは他の臓器に転移する事です。転移について、鳥かごと鳥に例えてみましたので参考にしてください。やはり早期に発見して、鳥がかごの中にいる間に捕まえた方が良さそうです。

皆さん、緩和ケアという言葉を知っていますか？緩和ケアは治療ができなくなってからの最後の手段のように捉えられている事がありますがそれは違います。がんに伴う様々な苦痛を和らげること＝緩和ケアです。がんと診断された後、早いうちからがん治療と並行して、緩和ケアを受けた方が生存期間が長くなるというデータもあります。皆さん、緩和ケアの本当の意味を理解して、積極的に緩和ケアを受けましょう。

身近であって身近でいてほしくないがんですが、もしがんだと診断を受けたら・・・

情報収集をしましょう。セカンドオピニオンという方法もあります。インターネットでの情報収集は信頼できるサイトを利用しましょう。当院にはがん患者さんとそのご家族のための患者図書室・患者サロンがあります。平日の9：00～12：00にオープンしており、自由にご利用いただけます。職員が常駐しておりますので、ご相談への対応も可能です。是非ご利用下さい。

## 鳥かごと鳥（がんの拡がり）

### ・どこで鳥をつかまえるか…

早期のがんは、鳥かごの中の鳥を捕まえるように比較的簡単

リンパ腺の転移は、鳥がかごから出て部屋の中を飛んでいる状態。頑張れば捕まえられるか…

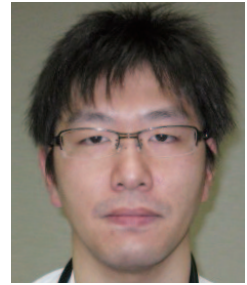


ほかに転移したがんは、鳥が部屋の外に出てしまった状態。捕まえるのが難しい。

奇跡的に鳥が自分から戻ってくることもあるかもしれない…？



## 部署紹介



消化器センター 消化器内科医師 小泉 忠史

当センターは消化器内科6名、消化器外科5名の計11名の医師がいます。

昨年度、外来は一日当たり内科が100人、外科が30人ほどの患者さんが受診されており、入院病床数は50床です。

消化器科で診療する臓器は消化管(食道、胃、小腸、大腸)、肝臓、胆のう・胆管、すい臓と多岐にわたり、良性疾患や癌などの悪性疾患に対する診療をしています。

内科では特に、内視鏡を用いた消化管出血の止血やポリープや早期癌の切除、慢性肝炎・肝硬変に対する治療、肝癌に対するカテーテル治療や経皮的治療、胆のう炎や胆管結石に対する経皮的治療や内視鏡治療、手術で切除不能な癌に対する抗癌剤治療を行っています。

外科では特に、肝癌をはじめとする肝腫瘍に対する肝切除や、胃癌、大腸癌に対する腹腔鏡を用いた鏡視下手術を積極的に行っています。

さて、最近では高齢化に加え、生活様式の欧米化も相まって癌が増加しています。

男性で癌死亡数の第3位、女性では第1位を占める大腸癌ですが、一部のものを除き、大腸ポリープが癌化してできると考えられています。ポリープや早期癌の段階で内視鏡的切除や外科切除を行うことによって治癒が期待できます。しかし、わが国では検診や2次検査の受診率が低いとため早期発見の機会を逃し、大腸癌の死亡数がなかなか減少しないのが現状です。

当センターでは検診異常者を対象に大腸内視鏡検査やCTを用いた大腸の検査(CTコロノグラフィ)を行い、大腸癌の早期発見に努め内視鏡治療や腹腔鏡下手術による早期治療につなげています。

癌以外の疾患では、肝硬変にまで進行する危険な脂肪肝である『非アルコール性脂肪性肝炎(NASH)』の増加が問題となっています。わが国では現在200万人程がNASHと推定されており、年々増加の一途を辿っています。それに伴いNASHを背景とした肝癌も増加していくと考えられています。

脂肪肝のうち、肝硬変に進展する脂肪肝か否かは一見ただけでは区別が付きません。最近では血液検査やエコー検査などによって肝組織を採取せずとも危険群をふるい分けることが可能となってきています。当センターではFibroscanという機械によって簡便に肝臓の硬さを測定することが可能であり、NASHの診察、治療に役立てています。

上に挙げたものは1例ですが、このような病気を早い段階で発見、治療をするためには自覚症状のないうちから検査を受けることが必要です。健診で異常を指摘された場合には、放置することなく病院を受診し、一度検査を受けられることを強くお勧めします。

また、昨年から1型のC型肝炎に対するインターフェロンを用いない経口剤のみの治療が行えるようになり、以前インターフェロンの治療が困難であった慢性腎不全のある患者さんや、早期の肝硬変に至っている患者さん、またインターフェロン治療でもウイルスが駆除できなかった患者さんに対しても治療が行えるようになってきています。

2型のC型肝炎に対しても、もう間もなく経口剤での治療が開始できる予定です。

以前C型肝炎と指摘されたことがあるも治療を受けていない方、以前治療を受けたもののウイルスを駆除できなかった方は経口剤での治療が行える可能性がありますので一度病院を受診して頂くか、かかりつけの先生にご相談下さい。

## 症例検討会のお知らせ

JCHO北海道病院では、地域の先生方との研修・交流の場として症例検討を中心とした勉強会を開催しています。

**第40回 札幌南部呼吸器懇話会**  
 日 時:平成27年6月17日(水) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

**第26回 豊平・清田・南区循環器懇話会**  
 日 時:平成27年6月16日(火) 19時00分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

**第40回 リバーサイド消化器懇話会**  
 日 時:平成27年7月14日(火) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

**糖尿病と腎性貧血(仮)**  
 日 時:平成27年7月15日(水)  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂

詳細は地域連携相談室までお問い合わせください。

## 研修会を実施しました

**第2回 周産期母子医療センター研修会**  
 日 時:平成27年1月29日(木) 19時00分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階会議室  
 参加者:院外37名 院内23名  
 講 演:『生後1ヶ月以内に知っておきたい新生児疾患』  
 JCHO北海道病院地域周産期医療センター長 澤田 博行 先生



**第6回 豊平区ブルーサークル**  
 日 時:平成27年2月6日(金) 19時00分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂  
 参加者:院外32名 院内10名  
 講 演:『患者中心の取り組みに向けたチームの関わり』  
 天理よろづ相談所病院内分泌内科 北谷 真子 先生



**第2回 札幌南腎臓懇話会**  
 日 時:平成27年2月19日(木) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂  
 参加者:院外60名 院内16名  
 講 演:『地震災害と透析』  
 仁徳会病院副院長 前野 七門 先生  
 『多発嚢胞腎の病態と治療』  
 北海道大学病院内科II助教授 西尾 沙織 先生



**第3回 周産期母子医療センター勉強会**  
 日 時:平成27年2月25日(水) 19時00分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂  
 参加者:院外38名 院内19名  
 講 演:『当院における新生児搬送の実際』  
 JCHO北海道病院 新生児科部長 岡嶋 寛 先生



**第39回 札幌南部呼吸器懇話会**  
 日 時:平成27年3月12日(木) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂  
 参加者:院外13名 院内25名  
 講 演:『肺がんの検診-胸部X線写真・胸部CTはどこまで有用?-』  
 JCHO北海道病院 腫瘍センター長 原田 敏之 先生



**第39回 リバーサイド消化器懇話会**  
 日 時:平成27年3月17日(火) 18時30分～  
 場 所:JCHO北海道病院 3階講堂  
 参加者:院外17名 院内29名  
 講 演:『C型肝炎治療の新展開-IFNレジメンからIFNフリーレジメンへ-』  
 JCHO北海道病院 消化器センター長 古家 乾 先生



## 災害救急指定日

平成27年  
 5月12日(火)・5月30日(土)  
 6月 9日(水)・6月22日(月)  
 7月 7日(火)・7月19日(日)



## JCHO北海道病院 地域連携相談室

〒062-8618 札幌市豊平区中の島1条8丁目3-18  
 TEL 011-831-5151(病院代表) URL <http://hokkaido.jcho.go.jp>  
 <医療機関専用：地域連携相談室直通>  
 TEL 0120-515-830 / FAX 011-815-1005

